

日本の自転車ルール知って

帯広署初 外国人実習生に講習

阪口巡査部長から交通ルールを学ぶ技能実習生



日。今春から自転車に乗ることになり、同施設が「専門的なことを教えたい」と講習を依頼した。

同署交通第一課の阪口学爾巡査部長、警備課の加藤和弥警部補が指導した。日本の交通ルールやヘルメット着用的重要性を説明した後、点検方法や交差点での曲がり方などを教習した。

交通ルールの説明にはインドネシア語の資料が用いられた。同施設の生活相談員布谷愛佑美さん(28)の手助けを受けながら、ソフィアナさんは「一時停止ってなんですか」などと質問。スギヤンティさんは「インドネシアのルールとはかなり違った。これから自転車で買い物や公園に行くのが楽しみ」とほかにんだ。

同施設の藤森雅人統括部長(46)は「言葉のストレスが大きいと思う。それをなくすことに傾注したい」と力を込める。阪口巡査部長は「日本の当たり前と彼女らの当たり前は違う。試行錯誤しながら指導を行っていきたい」と話した。

技能実習生への自転車講習は同署初の試み。

スギヤンティさん(23)

とソフィアナ・ルスタリさん(2)

は昨年11月末に来

【音更】帯広署は14日、

町内の高齢者施設「北勝館」

で介護士として働くインド

ネシア出身の技能実習生2

人に自転車講習を行った。